［普及事項］

成果情報名：秋田県における斑点米カメムシ類のジノテフランに対する感受性

研究機関名　農業試験場生産環境部病害虫チーム
担　当　者　髙橋良知・蛭川泰成

［要約］

秋田県で発生している斑点米カメムシ類のアカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメ個体群は、ジノテフランに対して感受性と考えられる。

［キーワード］
アカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメ・感受性・ジノテフラン

［普及対象範囲］
県内全域

［ねらい］
秋田県において斑点米カメムシ類の基幹防除剤として使用されているジノテフラン剤は、2020年に新潟県のアカヒゲホソミドリカスミカメで低感受性個体群が確認されている。本県では、2006年から当剤が継続して使用されていることから、薬剤感受性の低下が懸念されるため、各地域個体群の感受性を調査した。

［成果の内容及び特徴］
1　2022年～2024年にかけて、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメともに41地点から採集して感受性検定を行った結果（表１）、両種とも補正死虫率が全て80%以上であり、感受性個体群と判定された（図１）。

［成果の活用上の留意点］
1　ジノテフラン剤は、これまでと同様に基幹防除剤としてイネ出穂期10日後頃に散布する。また、同24日後頃にはジノテフラン剤と異なる系統のスルホキサフロル剤またはエチプロール剤を用いて防除を行う。

2　感受性検定は、新山・髙橋（2021）の方法を一部改良し、ジノテフラン濃度を37.5ppm、1個体当たり滴下量を0.2μLとした局所施用法により実施し、補正死虫率80%以上の個体群を感受性と判定した。

3　アカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメは、５～７月に畦畔や農道等から採集した。特に、2023年と2024年は、ジノテフラン剤が１年に２回散布されていることが多い山本地域を重点的に調査した。

［具体的なデータ等］

表１　検定個体群の採集地点数

調査年	地域	地点数	
		アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ
2022年	鹿角	2	1
	北秋田	1	1
	山本	4	4
	秋田	3	4
	由利	1	3
	仙北	1	1
	平鹿	1	2
	雄勝	1	1
	計	14	17
2023年	山本	14	10
	秋田	1	1
	計	15	11
2024年	山本	11	12
	秋田	1	1
	計	12	13
総計		41	41

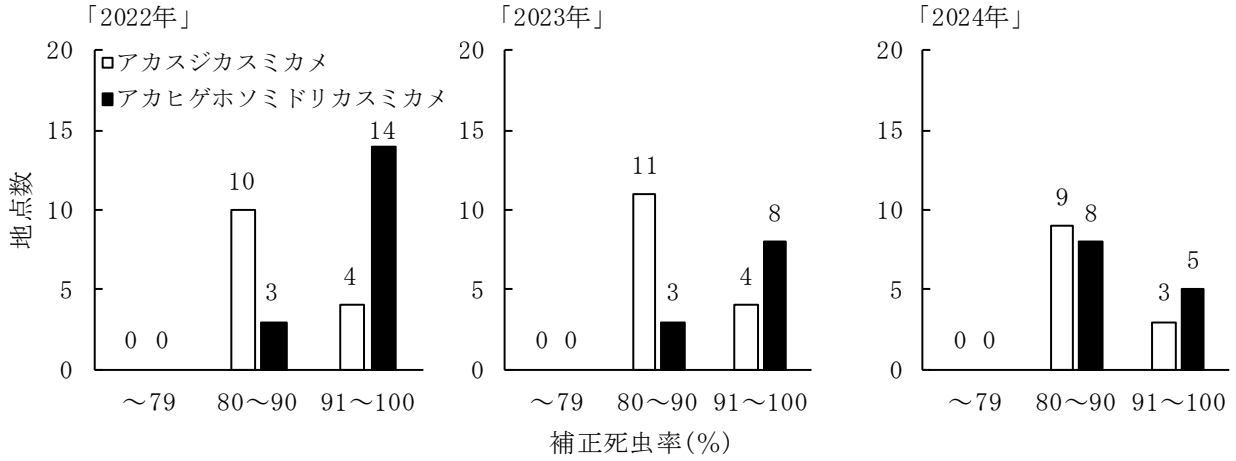

図１　ジノテフランに対する感受性調査結果

※ 補正死虫率＝100×(処理区死虫率－無処理区死虫率)/(100－無処理区死虫率))

［その他］

研究課題名：実需に応じた秋田米生産を支える病害虫防除技術の確立

研 究 期 間：令和３年度～令和６年度

予 算 区 分：県単

掲 載 誌 等：第 78 回北日本病害虫研究会